

# 楽しい郷土史だより第14号

令和8年3月 裾野市文化財保護審議会・裾野市教育委員会生涯学習課

## もくぞうしめんじょしんざぞう もくぞうずいしんざぞう 木造四面女神座像・木造隨身座像が 県文化財に指定

令和5年2月22日に裾野市指定有形文化財に指定された茶畑浅間神社の木造四面女神座像1体と木造隨身座像2体が、令和7年11月21日に静岡県指定有形文化財に指定されました。

「木造四面女神座像・木造隨身坐像」は共に平安時代後期に制作されたもので、木花開耶姫命（コノハヤサクヤヒメ、富士山の神様）を御祭神とする茶畑浅間神社に伝来したことから、当時の富士山信仰の姿を示すものとして極めて重要な資料です。富士山信仰の神像としては県内最古とされており、国内で2番目に古いとされているものです。

「木造四面女神坐像・木造隨身坐像」ともに、国内にも類例が少なく、県史上極めて貴重な資料として指定に至りました。



木造四面女神坐像



木造隨身坐像

令和7年度 「すそのぶんかざい」コンテスト2025」市長賞・教育長賞の受賞者をご紹介します

- 《一般の部》 市長賞 小竹 正之様「年越しの大祓いの芽の輪」  
教育長賞 大庭 邦治様「202年前の案内標識（道しるべ）」
- 《中学生以下の部》 市長賞 杉山 実穂様「鳥居」  
教育長賞 渡邊 愛 様「五竜の恵み」



文化財をもっと身近に！  
裾野の文化財紹介アプリ



引用：郷土読本「すその」編集委員会 郷土読本「すその」 裾野市教育委員会  
郷土読本「駿東」編集委員会 郷土読本「駿東」 駿東地区教育協会  
静岡県文化財課公式Instagram  
(<https://www.instagram.com/p/DQ76500EwzJ/?igsh=NTc4MTIwNjQ2YQ==>)  
望月保宏氏著「早雲・北条五代と伊豆」長倉書店  
三島市公式ウェブサイト (<https://www.city.mishima.shizuoka.jp/page/2145.html>)  
裾野市公式ウェブサイト  
(<https://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/4/5/11/3/15749.html>)

【編集・発行】裾野市文化財保護審議会  
裾野市教育委員会生涯学習課  
裾野市深良435番地  
TEL055-994-0145  
発行日 令和8年3月  
裾野市公式ウェブサイトで公開中 →  
生涯学習センターで配布中



## 豊臣秀吉の天下統一

令和8年のNHK大河ドラマは、「豊臣兄弟！」です。そこで、「楽しい郷土史だより」も、それに関係する近隣の歴史遺産や歴史事実の紹介をしたいと思います。

豊臣秀吉の天下統一の仕上げは、小田原に本拠を構えていた北条氏を従わせることでした。話し合いでは決着が着かず、天正18年（1590年）秀吉は12万の大軍を率いて北条氏攻めにとりかかります。北条氏は、韮山城（伊豆の国市）・山中城（三島市）の諸城に守備軍に総勢およそ4万を置いて対抗しました。秀吉軍として参加した徳川家康は長久保城（長泉町）に入り、秀吉は三枚橋城（沼津市）に入って徳川家康と共に作戦計画を立て、全軍を惣ヶ原（長泉町上土狩）に集結しました。

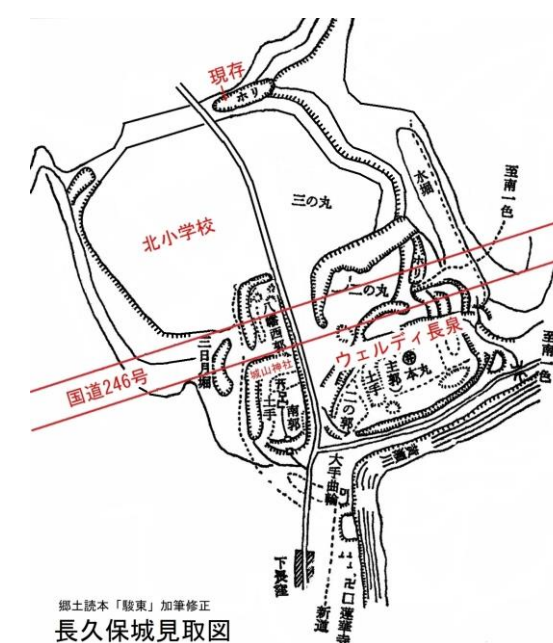
総力を結集した秀吉の軍勢は北条氏の出城をつぎつぎに攻め落とします。山中城は豊臣秀次（秀吉の甥）率いる6万7千の軍勢で、4千の守備軍を圧倒し、わずか半日で落城。残兵は小田原城に撤退しました。

韮山城は、秀吉の主力が攻めますが、予想以上に時間が掛かり、家康のあっせんによって開城させることができました。

その後秀吉は、小田原城を見おろす石垣山に陣を進め、無理矢理小田原城を攻めることはせず、城のまわりを包囲して兵糧（ひょうろう）攻めにする戦法をとりました。

この作戦は期待どおりの効果をあげ、大きな戦いもなく、ついに北条氏は秀吉の前に無条件降伏し、北条氏直は高野山に追放され、氏政・氏照兄弟は切腹を命じられ、北条氏は北条早雲以来100年で滅亡しました。

小田原城を陥落させた秀吉は、関東平定の手がかりをつくり全国統一の歩みを進めることができたのです。※令和8年大河ドラマ「豊臣兄弟！」の主人公秀長は病氣療養中のため小田原征伐には参加していません。※長久保城は、今の長泉北小学校付近にありました。現在では、堀の一部が残っています。



郷土読本「駿東」加筆修正  
長久保城見取図



豊臣秀吉の進軍  
Map data=OpenStreetMap contributors  
www.openstreetmap.org/copyright

## 徳川家康による佐野小屋（佐野砦：三島市伊豆佐野）攻略

天正10年（1582年）9月、徳川家康は配下の伊賀衆を駿河に派遣し、伊豆の北条軍の後方かく乱を命じました。

徳川方の伊賀衆は、三枚橋城将の松平康親の命によりひそかに北条方の佐野小屋（佐野砦・三島市佐野の耕月寺付近）に忍び込み、砦内部の様子を探索し侵入路まで設定して康親に報告しました。

その報告を受けて康親と興国寺城将の牧野康成は9月15日夜、伊賀衆を先鋒として佐野小屋攻略に出陣しました。

折しも暴風雨のため徳川軍は難なく佐野小屋に接近し、これを急襲して陥落させました。不意をつかれた北条軍はなすすべなく敗北し逃走しました。

佐野小屋は第一次・第二次甲相合戦のさい、武田信玄・勝頼の父子ともに落とせなかった要害で佐野小屋攻略の報を聞いた家康は大いに喜んだという話があります。

## 大森氏と北条早雲

今から850年ほど前、藤原親康が深良に移り住み子の親家から大森の姓を名のりました。その後、大森氏は駿河守護の今川氏や鎌倉公方の足利氏と強く結びつき、室町時代の末ごろまで駿東一帯に勢力を張っていました。

大森氏の勢力は頼春の代になってますます栄え、初代小田原城主となり、その子孫は関東にまで勢力をふるっていました。

北条早雲は、初め伊勢新九郎盛時と名のっており、室町幕府將軍の申次集を務めていました。駿河の守護今川氏とは、姉の北川殿が今川義忠の正室というつながりがあり、文明8年（1476年）義忠の急死による家督争いで甥の今川氏親を助けた功により、長享2年（1488年）頃、富士郡下方12郷を与えられ、興国寺城主となったとされています。

この後、盛時は明応2年（1493年）に伊豆韮山の堀越公方・足利茶々丸を襲って伊豆国を攻め、戦国大名としての第一歩を踏み出します。その後、明応4年（1495年）に甲斐に攻め込み、さらに、同年9月、相模小田原の大森藤頼を討ち、小田原城を奪い取りました。

以後、北条氏は5代にわたって小田原を本拠とする戦国大名に成長していったのです。



伊豆佐野の耕月寺



佐野砦跡と思われる耕月寺裏山



大森氏と関係が深いとされる興禅寺の山門

## 秀吉と光明寺（公文名）

秀吉が、いよいよ小田原城を攻めるとき伊豆の戸倉城主の笠原新六郎のもとにつかいをし協力を求めました。新六郎は、この頃すでに主君の北条氏を離れ、沼津の三枚橋城主高坂源五郎についていました。

新六郎の返書には公文名の光明寺住職に相談するようにとあったので部下の者が住職を訪ねて話すと「小田原城を攻めるのは暴挙だ」と言って反対したといわれています。

しかし、その夜秀吉の軍は小田原攻撃の兵を発し、その一軍は光明寺に火を放って七堂伽羅をことごとく焼き払い、その燃え上る火の明かりを頼りに箱根の山道を登っていったと伝えられています。



公文名の光明寺

## 山中城址（国指定文化財「史跡」）

山中城は、戦国時代末期の天文年間から永禄年間（1530～1560年頃）、小田原に本城をおいた北条氏によって番城（城主を置かない城）として築城されました。山田川や来光川の源流に挟まれ、急峻な斜面に囲まれた自然の要害の地につくられた山城は、標高580m、城の範囲は東西500m、南北1,000mに及びます。

城からの展望はよく開け、西櫓からは御殿場・裾野方面が、岱崎出丸からは伊豆北部と駿東の大半を一望のもとに見渡すことができます。

山中城のある伊豆地方北部は、武田・今川領と国境を接しており、本城である小田原城にとって西方防御の要の地でありました。天正年間、全国制覇をめざす豊臣秀吉が小田原攻めに着手すると、山中城は韮山城、足柄城とともに最前線の軍事拠点として重要視され、堀や出丸などの大改修が行われました。天正18年

（1590年）3月29日、6万7千の豊臣軍の総攻撃を受け、4千の北条勢は必死に防戦しましたが、鉄砲と圧倒的兵力の前にわずか半日で落城したと伝えられています。豊臣方で一番槍を果した渡辺勘兵衛の「渡辺水庵覚書」は、この戦闘がいかに凄まじいものであったかを物語っています。いま、三ノ丸にある宗閑寺境内には城主松田康長以下、敵味方の武将の墓がひっそりと苔むして並んでいます。

山中城は、北条氏の築城技術を駆使して造られた城で、なかでも「障子堀」や「畝堀」は後北条氏の城に特徴的な堀の形です。



山中城址



北条氏特有の障子堀